

8 / 21・白杵市社会教育委員研修会 (市内の地域振興協議会について)

講師・委員の皆さんより 研修会・アンケートで出てきた言葉をまとめました

- 人員減のなか、活動の目的を絞り込む必要がある
- できることをやっていく
- 現状維持でやっていく

★近隣でぬくもりを感じられるような、共助を拡充した共生社会を実現

＝地域振興協議会設立の目的

- コロナ禍で学んだこと

→活動制限がかかっているなか、地元で様々な工夫を凝らした行事があり楽しめた

- 田野小(地区の小学校)は田野地区の財産

- 清掃活動がコミュニティの始まり

- 小学校Pが動いた

★地域を知って人を知る お互いの顔が見えると、有事の際に共助できる。

＝地域振興協議会の活動の最終目的

- コミュニティスクールを利用 コロナ禍で学んだことを生かした新しいPTAの形

- 地区になじんでもらう

- 拠点(コミュニティセンターなど)からの積極的な取り組み

- 肩ひじはらずに楽しみながら、なんとかみんなでやっていく

- 集まれる人が集まる

- 地域振興協議会(各種団体)が元気な姿を見せる

- 何人かのリーダー(社会教育委員も含め)で地域をもりたて、それがうねりとなり大きくなる

第三号では、八月に行われた地域振興協議会に関する市の研修会、十月に大分市役所で行われた大分ブロック(大分・由布・津久見・白杵)の研修会について、委員の皆さんでふりかえるとともに、今後の課題を整理し、社会教育委員として何ができるのか?考えてみたいと思います。

白杵市 社会教育委員だより 第三号

地域振興協議会 会長のことばから見えてきた課題

近隣でぬくもりを感じられるような試み
お互いの顔が見えてくるような試みの積み重ねが、
地域振興協議会の活動の最終目的である、
有事の際の共助につながる。



その大きなハードルとなっているのが、
若い世代の巻き込み方を、いかにする
か?ということ。



社会教育委員でできることは?

本日の会議のテーマ)

若い世代を取り込みながら顔見知りになるきっかけになるような取組みは、
どのようなことをしていますか?もしくは今後してみたいと考えますか?

協議にあたっての手順

※2グループにわかれて考えていただきます。

1) 発表者を決めてください。進行係・記録係は事務局職員が行います。

2) 取組をどんどんあげていきましょう。

※顔見知りになる(共助につながる)きっかけであれば、どんなことでもOKです。

3) あげた取組について、すぐにもできること、今後してみたいこと にわけましょう。

※発表準備をお願いします。

4) 各グループ発表していただきます。

※すぐにも真似できることについては、各所属団体で取り入れてはどうでしょうか?

5) 今後してみたいことについては、来年度の社会教育課事業の取組の参考にし、

皆さまにご意見をお伺いしたいと考えています。

10/19・大分ブロック社会教育研修会

大分・由布・津久見・白杵の4市で毎年研修会を行っています。今年は大分市役所で、各市の社会教育委員及び市職員36名が集まり行われました。白杵市からは、白杵市社会教育委員6名（後藤委員・長野委員・齋藤委員・祖父江委員・三崎委員・吉賀委員）含む8名で参加しました。研修内容について報告します。

発表) 大分市社会教育委員の取組み

①障がいのある人の生涯学習について

○令和2・3年度 障がいのある人への生涯学習につながる取組

坂ノ市公民館の事例：障がいのある人対象の教室
(例：地元のクラブや医療法人が講師・参加者となりパラスポーツ教室を実施。卓球バレー、ボッチャ)

★研修で話題になったこと

○大分市の坂ノ市公民館のように、地元の人や医療法人がタイアップして行っている教室はどの市も行っていない。卓球バレー教室を開設した市もあるが、人がなかなか集まらない。

○教室として継続することは無理でも、年1回とか単発でも行うことは可能ではないか？既存事業を少し膨らませて行うなど。

②若者が「つどい・まなび・つながる」ことができる公民館のあり方について

○令和4年度 人生100年時代における生涯学習・社会教育
→検討結果：全てのライフステージで切れ目のない学習の機会を提供することが必要。令和5年度の具体的な取組みにつなげる。

○令和5年度 青年層が「つどい・まなび・つながる」ことができる公民館のあり方

【13～29歳対象にアンケートを実施 その一部を紹介】

✓公民館をどんな時に利用する？

→図書室、フリースペース（6割）、利用しない（2割）、習い事（2割）

✓利用しない理由？

→必要がない（4割）、どのような催しがあるか知らない、利用方法がわからない（2割）

時間が合わない、近くにない（3割）

一緒に活動する仲間がない（1割）

✓参加したい催し？

→体を動かす（2割）、生活に必要な知識・技術（1割）、同世代と交流（1割）

✓オンライン配信による催しがあれば参加したいか？

→参加したくない（3割）

✓こんなうれしい声も… 電気スタンドを貸してもらったのが、良い出です。ありがとうございます。

★研修で話題になったこと

○利用者の若者離れについて どの市も共通課題である。

○学生は、学習スペースなどで気軽に利用できるような、比較的自由に使えるスペースが必要。

○若者のほとんどが、集わなくても自宅で気軽にできる、オンライン講座に興味があるのかと思っていたが、意外とそうでもない。内容に興味・関心のあるものであれば参加してみたいという気持ちを持っている人が多いのではない。

○ネーミングが大事という声が多く出た。若者が興味をひく内容の催し、年齢問わず様々な人が楽しいと思える催し

【ネーミング例】

1人暮らしのための準備講座、

そうだカレーを食べよう、

6人から映画祭、フリーマーケット

○利用者に対する職員の配慮、気遣いが、集いやすい公民館のイメージUPにつながる。



↑白杵公園コース例。全コースは白杵市HP
(右の二次元コード、もしくは
TOP>市民向け>教育・文化・生涯学習>生涯学習>スポーツ
からご覧になれます。



白杵市では、市内16か所にウォーキングのモデルコースを設定しています。運動の秋、ぜひ自然を感じながら気になるコースに挑戦してみてください。

○八野大路○市浜○上末広○佐志生
○下北○下南○下ノ江○白杵市総合公園
○白杵公園○川登○吉四六ランド○南野津
○都松○二孝女の里○田野○戸上

社会体育の方針
「ひとりスポーツの実践」

ご存じですか？白杵のウォーキングコース